

近畿学校保健学会通信

No.82

平成7年8月31日発行
近畿学校保健学会事務所
〒520 大津市平津2丁目5-1
滋賀大学教育学部健康学研究室
TEL, FAX 0775-37-7795, 7726
振替口座 01060-1-77589

目 次

第42回近畿学校保健学会を終えて	1
第42回近畿学校保健学会報告	2
1. 総会記録	3
2. 一般講演についての座長コメント	6
3. 特別講演	11
4. シンポジウム	12
5. 学会印象記	14
近畿学校保健学会名誉会員・評議員名簿	20
近畿学校保健学会会則	22
近畿学校保健学会役員選出規程	23
平成7年秋の関連全国学会・大会案内	24

第42回近畿学校保健学会を終えて

第42回近畿学校保健学会

学会長 勝 野 眞 吾

6月10日、無事に第42回近畿学校保健学会を終えることができました。今回は当初予定していました神戸市の兵庫県民会館が突然の地震により使用不可能になり、急遽会場を兵庫教育大学に変更して開催させていただきました。地の利が悪く、また当日は中国高速自動車道の渋滞などもあって参加いただいた先生方には御不便をおかけし、申しわけありませんでした。しかし、それにもかかわらず評議員、学会員、当日会員の多くの先生方、学生会員の方達に参加いただき、ことに被災地の兵庫県から多数お出でいただきましたことは何よりありがたく思いました。

一般口演では1月の地震の生徒の健康に及ぼす影響についての研究、養護教諭からみた保健主事制度についての発表などタイムリーで貴重な報告がありました。地域の特性を大切に、ニーズの高い問題に対して自由な相互批判を通して解決の糸口を探ろうとするこの学会の良い伝統を感じました。また全体とし

てテーマに学際的な広がりがあり、近畿圏以外の岡山県、広島県、鳥取県からも発表、参加があったことは特筆すべきだと思います。

この学会では一般口演に加えて大阪大学微生物病研究所教授の上田重晴先生の特別講演「子どもの病気と予防接種」とシンポジウム「子どものライフスタイルと健康問題」を企画しました。一日のみの学会で時間的に制約があり、質疑や討論の時間が少なくなってしまったのは残念でしたが、それぞれ最前線で御仕事をされておられる先生方から最新の興味ある話題をわかりやすく、しかも、質を落とさずに話していただき、フロアからも議論を進めるにあたっての適切なコメントがありました。

学会当日は晴れ、特に懇親会の始まる夕方はさわやかな初夏の風が吹き、私たちの大学のキャンパスが1年のうちでも最も美しい姿をみせました。参加していただいた先生方にお見せすることができたのは私にとって何よりの幸運でした。

学会開催にあたっては近畿学校保健学会幹事長の林正先生はじめ幹事の先生方から暖かい御配慮と御助言をいただきました。心より感謝いたします。また、大きな被害を受けられたにもかかわらず、こころよく後援あるいは協賛をいただきました兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県医師会、兵庫県歯科医師会および兵庫県薬剤師会、そして協賛各位に厚く御礼申し上げます。

最後に、細やかな気配りで学会運営にあたってくれました事務局長の渡邊助教授、県内や遠くは九州、静岡、和歌山からかけつけて協力してくれた大学院修了生と卒業生、裏方を務めてくれた在校生の皆さんに感謝いたします。

第42回近畿学校保健学会報告

本年度学会は勝野眞吾教授（兵庫教育大学）を会長として、兵庫県民会館を会場に開催の予定でありましたが、阪神大震災のため会場使用ができなくなりました。急遽兵庫教育大学に会場を変更して、平成7年6月10日（土）に開催されました。交通が不便な事もあって、三田駅よりバス2台をチャーターしていただき、9:30には大学に着くことができた。

10:30より一般口演の発表がなされたが、時間的にはゆとりがあった。4会場に分かれての同時進行であったが、養護教諭、保健学習、運動、栄養、生活週間と健康、保健室、ストレス・精神保健、幼児、環境・薬物、性教育（AIDを含む）、スポーツ傷害・安全等の演題を中心に、約30演題について熱心な討論が行われた。

午後からの特別講演は上田重晴大阪大学微生物病研究所教授による「子どもの病気と予防接種」についての講演を拝聴した。多くのスライドを用いて予防接種の意味や効用について分りやすく説明された。予防接種の意味が問われている時期でもあって、大変勉強になったように思う。ひき続き「子どものライフスタイルと健康問題」のシンポジウムが行われた。松浦尊磨先生は五色町健康福祉総合センター長の立場

で、現在まで取り組んで来られた健康づくりの基本を実践を通して示された。続いて石川哲也先生は文部省の行政の立場から、健康教育の位置づけと問題点を指摘され、現行の指導要領の示す新しい学力観にもとづく指導は、一人一人の子どもの自己実現をめざすものとしての位置づけが強調された。また川畑徹朗先生はJKYBプログラムに取り組んでこられた立場から、Know Your Body の日本人にあった考え方（認知やスキルとの関連）を示された。最後に長谷川まち子先生は現場の養護教諭の立場から、長年取り組んで来られた健康づくりの実践的経過について具体的な成果を示された。以上の発表は子どものライフスタイルと健康問題を考えるにあたっては、大変興味深い話題であった。

その後の懇親会も大変盛会であり、時間の過ぎるのが早かった。この学会の企画運営に大変ご尽力いただいた勝野学会長はじめ、渡辺事務局長並びに多くの兵庫地区会員の方々に心からお礼申し上げます。

以下慣例によりまして、当日の総会記録、一般口演の座長コメント並びに特別講演のまとめ、学会印象記を記して学会報告にかえさせていただきます。

(幹事長 林 正)

1. 総 会 記 録

1) 学会長挨拶

第42回年次学会長の勝野眞吾教授が挨拶。

2) 議長選出

慣例により前年度会長八木教授が議長に選出された。

3) 議 事

(1) 平成6年度会務報告

①会員数 318名（名誉会員14名を除く）

②会議開催、学会通信の発行など

平成6年4月9日 第1回幹事会（於：八尾文化市民会館）

5月2日 学会通信No.78発行

5月7日 第2回選挙管理委員会（開票）

（大阪教育大学天王寺キャンパス）

5月28日 第2回幹事会 選挙結果の報告（於：京大会館）

6月11日 京都大学医学部付属病院臨床講堂に於いて第41回年次学会を開催

（会長 八木 保教授）

8月31日 学会通信No.79発行

10月1日 第1回幹事会（於：兵庫県民会館）

平成7年2月1日 学会通信No.80発行

1月17日の阪神大震災のため兵庫県民会館の使用が困難になったため、会長と相談の結果会場を兵庫教育大学に変更したことについて、幹事各位の了解をうる。

4月8日 第2回幹事会（於：大阪教育大学天王寺キャンパス）

(2) 平成6年度決算報告

石樽常任幹事より報告があり、出口・白石幹事の会計監査による報告を受けて承認された（別表2）。

(3) 平成7年度予算案について

林幹事長より説明があり、原案通り承認された（別表3）。

(4) 次期（第43回）学会開催および会長について

第43回年次学会は大阪地区で開催されることが了承され、学会長を一色玄教授（大阪市立大学医学部小児科学教室）にお願いすることになった。

(5) その他 講演会の開催について

林幹事長よりベルギー自由大学 Dr. Roland Hauspieの講演会開催の連絡があった。

近畿学校保健学会会員数

(別表 1)

(平成7年3月31日 現在)

所 属	名 誉 会 員	評 議 員	一 般 会 員	計
滋 賀	1	23(1)	14(5)	37(6)
京 都	3	30(1)	27(10)	57(11)
大 阪	4	69(5)	26(4)	95(9)
兵 庫	1	46(4)	22(13)	68(17)
奈 良	4	20(4)	5(2)	25(6)
和 歌 山	4	26(7)	2(7)	28(14)
そ の 他			8(1)	8(1)
計	17	214(22)	104(42)	318(64)

() 内は、5、6年度会費未納者

(別表 2)

近畿学校保健学会 平成6年度決算報告

(平成7年3月31日)

収入の部

	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 費 収 入	960,000	924,440	△ 35,560	3,000×305名、3,500×1名
繰 返 金 入	646,895	646,895	0	※2,970×2名
雑 収 入	10,000	8,055	△ 1,945	利息
合 計	1,616,895	1,579,390	△ 37,505	

※振込手数料学会持ち

支出の部

	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
印 刷 費	450,000	479,980	△ 29,980	通信No.78、79、80、封筒印刷
郵 送 費	250,000	277,000	△ 27,000	
事 務 費	80,000	20,605	59,395	
人 件 費	120,000	86,800	33,200	
会 議 費	50,000	0	50,000	
交 通 費	30,000	5,000	25,000	
学 会 補 助 費	200,000	200,000	0	兵庫へ支払分
役 員 選 挙 費	0	58,453	△ 58,453	
予 備 費	436,895	40,000	396,895	京都へ新入会員(20名)分

(小 計)

(1,167,838)

(449,057)

次 年 度 へ 繰 越		411,552		
合 計	1,616,895	1,579,390	37,505	

上記報告の通り相違ありません

平成6年4月1日

出口 庄 佑 (印)

白石 龍 生 (印)

(別表 3)

近畿学校保健学会 平成7年度予算案

(平成7年4月8日)

収入の部

	予 算 額	摘 要
会 費 収 入	930,000	310名
繰 返 金 入	411,552	
雑 収 入	10,000	
合 計	1,351,552	

支出の部

	予 算 額	摘 要
印 刷 費	500,000	通信No.81、82、83、封筒印刷
郵 送 費	300,000	
事 務 費	30,000	
人 件 費	100,000	
会 議 費	30,000	
交 通 費	20,000	
学 会 補 助 費	200,000	
役 員 選 挙 費	100,000	
予 備 費	71,552	
合 計	1,351,552	

2. 一般講演についての座長コメント

第1会場

演題番号 (101～102)

横 尾 能 範 (神戸大学)

演題101:「養護教諭からみた保健主事制度の検討」では、滋賀県下の保健主事の実態と役割について、養護教諭に対するアンケート結果から検討が加えられた。保健主事はすべて養護教諭以外が選ばれていたが、校種によって職種差があったり、小規模校では1年で交代することが多く見られた。また、二種免の教師が選ばれた場合には、保健主事の主要な役割を養護教諭が行っていたり、協力関係の円滑さに欠けるなど、保健主事制度の機能について問題提起があった。

演題102:「養護教諭の精神健康調査」では、対人専門職に携わる人々の間で問題視され始めた「燃えつき現象度」を、学校内の独自の立場にあると考える養護教諭について大阪府下公立高校勤務者を対象にした調査結果が報告された。GHQ調査から養護教諭で精神的に不健康と考えられる人の割合は、以前に行われた看護婦と同程度の約40%であり、若年層ほどその率が高いとされ、また同様に行われた学生集団の倍以上の発生率であることが報告され、卒業後間もない養護教諭の状況が浮き彫りにされた。

演題番号 (103～105)

大 橋 郁 代 (兵庫県教育委員会)

演題103:「全県校区新設高校における保健室利用の実態」全県学区により寄宿舎生徒が約60%在籍すること、2学期制の導入がされていること等を特徴とする高校・大学の一貫教育を目的として新設されたH高校における保健室の利用実態についての報告であった。頻回に来室する生徒の背景にある問題について、特にメンタル面から今後の更なる分析を希望する意見が出された。

演題104:「体の不調で来室する子どもの保健室での対応と連携に関して」30年という経験年数をもつ演者から、保健室登校、不登校児童との関わり150例をとおして保健室の役割、機能や養護教諭の組織的役割等について発表があった。30年間保健室経営をされて子どもたちに行動の変容が見られるような信頼関係を高める方法は何であったかという質問に対して、子どもたちにプラス指向で接すること子どもたちが自分を見つけるまで待つことと解答された。また、保健室の機能として精神保健に関わる時の限界への打開策は関係機関との連携や紹介であるということ。

演題105:「地域医療の中における養護教諭の果たす役割(性教育)」核家族化が進む中での性教育は地域医療機関等と連携することにより生徒たちが体験学習をとおして、命の大切さや小さな子(赤ちゃん)への労りの気持ちを育むことができる。地域医療機関が実施する事業参加による教育効果が発表された。

演題番号 (106～108)

三 野 耕 (兵庫教育大学)

演題106:「大学入学直後の学生の健康行動と健康知識」について、高校期までに習得した健康知識の程度、ならびに高校での「保健」学習の授業形態と大学入学直後の生活習慣との関連について検討したものである。その結果、運動実施、食事(3食)、睡眠7時間以上、それぞれを+とし、それ以外を-として、その組合せによって得点化したものを指標とした生活習慣尺度の高い者は、高校期までに得た健康知

識が豊富であったことを明らかにするとともに、健康行動の変容には健康知識が重要であることを考察し、保健学習における健康知識の習得の重要性を指摘している。

演題107：「保健学習と日常生活行動の関係性に関する研究」について、生徒の日常の生活行動が保健学習教材型の興味関心度にどのように影響を与えているかについて、三つのタイプに異なった保健教材（B：Biological型教材、P：Personal型教材、S：Social型教材）における興味関心度を目的変数、生活行動（睡眠、食事、運動、人間関係、学習意欲、生活意欲）を説明変数として重回帰分析によって生活行動が保健教材に及ぼす影響について検討したものである。その結果、それぞれの教材による保健学習への興味関心の程度は多様的でしかも生活行動とは密接な関係にあることを明らかにし、保健学習における教材は、学習者の生活行動の違いによって教材を考慮する必要があることを指摘している。

演題108：「学生における医学知識に関する調査（2）アルファベット（ABC）を用いた用語に関する因子分析」について血液型と性格の有無ならびにA型行動パターンの知識の有無をそれぞれ目的変数として、学部、回生、週刊誌の血液型記事およびその読書頻度、肝炎およびインフルエンザの知識の有無を説明因子として数量化理論Ⅱ類で検討したものである。その結果、血液型では、知識なしの方が性格と関係していると答えるものが多く、A型行動パターンの知識では、高学年が寄与していたが実際には正確に知られていないことがうかがわれ、保健学習において、医学知識の習得の重要性を指摘している。

以上の3演題は、保健学習の重要性を指摘するとともに、保健学習の教材や学習内容について今後の研究の方向を示すものとして貴重な報告であり、今後の研究の成果が期待されるものであった。

第2会場

演題番号（201～202）

荒 木 勉（兵庫教育大学）

演題201：の発表では、各運動能力が高くて均衡性にも優れているものの比体表面積は平均的な分布範囲に位置し、均衡性に劣るものの1/sは多くの場合75%タイル値以上であることを基に、比体表面積は身体の代謝を反映していることが示唆された。運動能力の均衡性のもつ発育・発達上の意味、均衡性の判定の手法等が論議されたが、個人差を尊重して、運動、栄養、休養に関連させた学習・指導内容を志向する本研究の発展が待たれる。

演題202：では、大学生の血中脂質成分に及ぼす運動習慣の影響が、男女別の成績及び性差について発表された。内容が興味深いものであるだけに、特にLDLが運動によって低下するメカニズム、個体差が大きい場合の資料の分析、運動のみならず他の影響要因を考慮すべく生活状態の調査・測定の必要性、標本数の問題等が論議された。本研究は現在における肝要かつ緊急の課題解決を志向しているものであり、今後の成果が期待される。

演題番号（203～205）

堀 内 康 生（大阪教育大学）

演題203：は兵庫県五色町の小学5年生－中学3年生を対象に土曜日－月曜日3日間の食事調査から蛋白質、脂肪、ビタミン、ミネラルの摂取量充足率とビタミンの摂取由来食品構成についての発表で脂肪、

カルシウム、鉄の摂取量が不足していると報告された。食生活は児童生徒の健康に直接関係する重要な問題であり実態を踏まえた指導は健康教育の一つの方法である。結果を学校給食にも反映させて欲しい。

演題204：は兵庫県の農村地区の小学5－6年生を対象に身体計測と運動能力、体力テストの結果から全国平均との比較を行い検査事項の一部が全国平均に比べ優れていること、朝食摂取率が高いこと、夜食摂取率が低いことなどについて報告した。この結果が生活習慣に関連するとの発表に対し調査対象の母集団が少数であることから単純な比較は誤った結論を導くとの指摘がなされた。

演題205：はゴマに含まれるリグナン化合物であるセサミンを脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットに4週間与えた後の血清リポ蛋白、脂質、肝臓ミクロソーム分画のACATを測定した結果を報告した。リポ蛋白ではVLDLの低下とHDLの上昇、肝臓ではACAT活性の抑制が認められたと発表した。コレステロールの律速酵素にはHMG CoA reductase もありヒトでは代謝経路の問題などにさらなるご検討をお願いしたい。

演題番号 (206～208)

濱 中 良 朗 (兵庫教育大学)

演題206：「最近の児童・生徒の生活実態について第一報－15年前との比較」

最近の児童・生徒は塾・稽古事およびTV等に費やされる時間が15年前に比較して延長傾向がみられ、この関係で小、中学生の就寝時間が30分遅くなり大人と同様夜型となっていた。また体の調子については『つかれた』、『だるい』が前回よりも多い傾向がみられることより、今後生活実態との関係を検討する必要があるとの見解が示された。

演題207：「アトピー性皮膚炎を持つ児童の実態と対応」最近アレルギー疾患特にアトピー性皮膚炎を持つ児童数は毎年増加の傾向にある。これらの児童に対する学校の保健指導の状態を知るために小4～6年生458名を対象に調査が行われた。この結果アトピー性皮膚炎と言う言葉は正確に知られておられず、この結果、不清潔で起こる、感染するなどの誤解から友人関係に悩む児童もいる。学校の積極的な保健指導がのぞまれる。

演題208：「学齢期小児のアレルギーの実態に関する疫学的研究」

血清IgEの分布と加齢変化 (Goshiki Health Study)

兵庫県五色町学齢期小児577名を対象として血清IgEを調査した。血清IgEはリンパ系の発育曲線同様に11才でピークに達した。IgEのレベルと朝食摂取の間に関連がみられ、ライフスタイルの関与が示唆された。

第3会場

演題番号 (301～303)

中 神 勝 (大阪府立大学)

演題301：「兵庫県南部地震被災による女子生徒の健康諸問題に関する研究」

1995年1月17日未明突如として襲った兵庫県南部地震に依る被災が、人々の健康状態にどのような影響を及ぼしているのか。大いに注目される中で、被災地域の女子生徒1,287名(中学生785、高校生502)が被災

3週間後に自覚症状として心身にどの程度の不調を感じているのかを「フラッシュバック」に依って見たものである。その結果、愁訴率は高校生に高かった。また、罹災状況によって引き起こされる反応は「心理感情面」で差が見られ、中学生では居住を変えることで起こるストレスが顕著に見られた。時宜を得た貴重な報告であり、経過観察など今後の追究結果を更に期待したい。

演題302：「女子短大生のストレスの疲労自覚症状への影響」

女子短大生の易疲労性の要因に関する一連の研究の中で行われているもので、本報では女子短大生（2年生147名）を対象とし、疲労関連要因（生活、健康、運動など34項目）と疲労自覚症状（産業疲労研究会30項目）についての調査結果と、ストレスに対する感受性の度合との間にどのような関連があるかを明らかにしようとしたものである。その結果、ストレスに対する感受性の高い学生は、下宿生に多く、「便秘をよくする」「疲労の愁訴率が高い」など、一般に健康状態の良くない学生であった。と指摘した。女子短大生の健康管理上で今後如何に活用され得るか、疲労関連項目相互間での検討も併せた追究の中で、更に意義も大となろう。

演題303：「台湾における教員の生活環境と精神健康に関する実態と一考察」

教員の精神保健の重要性に鑑みて、その一連の研究の中で、本報では、台湾台南部の小、中学校に勤務する男女200名の教師を対象とした精神健康度について、SDS得点を指標とした調査結果について報告した。併せて仕事、生活要因との関連を追究し、日本教師に対する調査結果とも比較した。その結果、うつ症状傾向は仕事の質的困難さや女性教師における長時間の家事労働時間などのために生じる仕事、生活両面での満足度の低さと関連している。また、台湾教師の抑うつ症状者は、オーストラリア教師同様、日本教師に比し少なかった。生活観、教育観などに依り左右されるが、国際比較も興味深いものであった。

演題番号（304～306）

勝 木 洋 子（兵庫県立姫路短期大学）

演題304：「幼児の発育発達に関する研究（1）」— 基本的生活習慣（簇）の形成について —

幼児の家庭における基本的生活習慣を成就率で表している。その基本的生活習慣のとらえ方は食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱といった幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容からスタンスがとられていた。できる、できないなどの評価区分で①起床・就寝、食前・食後の挨拶②洗顔・歯磨きを一人で③茶碗と箸を持ち一人で食事④寝間着に着替えて一人で寝る⑤排泄の後始末⑥外出・帰宅の挨拶の6項目に分けられさらに3・4・5歳の年齢別男女別の集計されていた。

演題305：「幼児の発育発達に関する研究（2）」— 基本的生活習慣形成の実態と項目相互間の関係 —

演者らが想定した上記の基本的生活習慣と遊びについて（ルールを守る、順番を待つ、など5項目）、行動面について（手伝い、留守番、兄弟喧嘩など8項目）が簇の形成の実態として現れているか、成就度からそのかわりを見た。

演題306：「幼児の発育発達に関する研究（3）」— 基本的生活習慣形成と関わる教育の実態 —

保護者と保育者の指導の程度と成就率を①基本的生活習慣②遊び③行動面から比較検討されていた。

上記3つの関連研究の質疑の場面で①生活年齢②家庭の差③見本となる親の像④指導の頻度⑤知識・行

動・理解⑥家族構成⑦専業主婦か否かなどが話題となった。

5歳児で日常生活の基本的な生活習慣はほとんど自立し、危なげない。運動機能は伸び、喜んで活動する。と私は認識している。

演題番号 (307～309)

宮 下 和 久 (和歌山医大衛生)

演題307：環境基準法の制定にともない、新学習指導要領でも環境教育への取り組みが打ち出された。本研究は、某国立大学薬学部4年生の公衆衛生学の講義の中で地球環境問題についての意識と行動を自由記載方式によって調査し、大学における環境教育の現状と問題点をとらえようとしたものである。過去4年間の各年度の学生の意識、行動は、地球サミットの開かれた平成4年が最も高く、マスコミのキャンペーンの効果が大きかったが、全体的には、年を追って意識、行動とも少しずつ高くなる傾向であった。体系的な環境教育の必要性を主張する研究発表であった。

演題308：学校環境管理の具体的な活動として、教室内の温度環境の変化に注目し、学生の集中力に及ぼす影響について、計算力および自覚的快不快感から評価を試みたものである。

快適な学習環境を実現するための研究として、評価されるが、集中力の評価法の検討や、他の教室環境の要因（空気成分、照明条件、騒音等）についての検討など、更なる総合的な検討が望まれる。

演題309：南オーストラリア州で実施されている薬物科学教育（Life Education for Children）について、プログラム、活動、機材、運営の諸点にわたって紹介された。プログラムでは、人体有害性を中心とした薬物教育ではなく、子どもたち自身の健全な発育・発達を理解を通して知識、意欲、態度を身につける課題設定がなされ、コミュニケーション、思考を重視した教育方法が大きな成果を生んでいた。今後の健康教育の方向として大いに参考にすべき教育方法であるが、その教育効果の評価についても検討される必要があろう。

第4会場

演題番号 (401～404)

川 畑 徹 朗 (神戸大学)

演題401：「高校生のAIDSに関する知識・意識・行動（1994年）」は、質問紙調査によって高校生のエイズに関する知識・意識、性行動、薬物行動を検討したものであり、性交経験率は約17%であり男女差がないこと、静脈注射による麻薬の使用経験者率は約1%であることが報告された。なお配付資料の中で、性交の際に必ずコンドームを使用する者の割合が54%にとどまっていることが示されていた。今後の研究によって、コンドームの使用に関わる要因について明らかにすることを望みたい。

演題402：「学校における効果的なエイズ教育を阻害する諸要因」は、兵庫県教育委員会のエイズ教育推進指定校となった高等学校における実践経験に基づいて、学校における効果的なエイズ教育の阻害要因について検討したものであり、それらを「学校の多忙さ」、「性・健康問題への意識の低さ」、「知識偏重の教育」、「学校の閉鎖性」の4つに分類して論じている。「学校の閉鎖性」に関する議論の中で、エイズ教育専門家を地域で共有すべきであるという提言はとりわけ注目された。

演題403：「高校全体で取り組めるエイズ教育」は、先の演題の高校の教師による発表である。この中で演者は、知識の教育は教科教育で、意識の教育は特別活動で実施したと報告したが、こうした区分による指導が果たして有効かどうか疑問に感じられる。また、この学校だけに限ったことではないが、実践に先だって、達成すべき具体的な指導目標を設定し、そうした目標の達成度を明らかにするための評価手段についての検討を十分に行ってほしいと思う。

演題404：「小学校高学年における性教育に関する研究」は、某小学校の5年生1クラスに対して実施した2年間の継続的な性教育の効果について述べたものである。本研究は、児童の将来に役立つような性教育の内容を明らかにすることを主な目的とし、主として授業後の児童の感想文の内容を分析している。今後は併せて、目標とする行動とは何かを明確にした上で、そうした行動の形成に関わる要因について検討するというアプローチも試みてほしい。

演題番号 (405～407)

石 樽 清 司 (滋賀大学)

演題405：ハンドボール競技による外傷・障害の防止対策を検討するために、本学会では発生頻度が最も高かった足関節捻挫の後遺症についての結果が報告された。調査対象は関西学生ハンドボール連盟所属男子の足関節捻挫経験者99名で、その治療内容、練習休止期間、経験年数、競技レベルなどと後遺症残存率から、治療を受けても放置しても後遺症残存率が50%以上認められたこと、病院、医院で受診しても専門医の正確な診断と治療が後遺症を残さないためには大切であることなどが報告された。

演題406：パソコンを使用した学校事故事例のデータベースシステムについて、そのシステムの構造と機能、操作環境・方法、管理責任などが実演をまじえて報告された。

演題407：「407」では事例データの収録状況・内容などが報告された。検索ソフトは表題一覧から検索する方法、キーワードなどの項目一覧から検索する方法があり、検索内容は短時間に画面表示され、印刷が可能であることや、事例内容から事故発生後の適切な処置判断、迅速な対応についての有用性が高いことなどが示されたが、現在のところ、事例の収録数が約200件と少ないので、事例収集のためにさらに多数の協力が要請された。学校での事故防止や種々のトラブル防止のために、このデータベースシステムの充実・拡充が期待される。

3. 特別講演

上 田 重 晴 (大阪大学微生物病研究所 教授)

「子どもの病気と予防接種」

座長 勝 野 眞 吾 (兵庫教育大学)

ジェンナーが天然痘の予防に種痘法を発明して200年後に天然痘が地球上から根絶された。わが国を含めて先進国ではポリオ流行はすでにコントロールされており、麻疹（はしか）も流行規模がかなり縮小した。いずれもワクチンの予防接種が効を奏したためである。しかし、伝染性の病気の予防接種には予防

効果が高く、病気が少なくなるほど、その副作用が問題になるというジレンマが付きまとっている。特に予防接種は健常な子どもを対象として行われることが多いのでこのジレンマの提起する問題は深刻である。予防接種法の改正はこのジレンマに挑もうとするものである。

この講演では上田重晴教授から子どもの病気を中心に伝染病と予防接種の歴史と現状、そして副作用、粘膜経由のワクチン開発の必要性などの最新の話題をわかりやすく解説していただいた。わが国では疾病構造の変化を背景に予防接種の必要性より副作用へ関心が集まり、近年では予防接種そのものまで否定する風潮さえみられる。しかし、世界全体をながめると、予防接種により人類がコントロールできるようになった病気の数を上回る数のエイズ、エボラ出血熱などの新しい病気が次々と現れている現状がある。

身体の免疫能力を利用したワクチンの意義、その有効性と安全性への配慮、そして将来の展望についての幅広い視野からのお話は示唆に富むものであった。

シンポジウム

「子どものライフスタイルと健康問題」

座長 渡 邊 正 樹

現代の健康問題を語る上で非常に重要なキーワードの一つがライフスタイルである。近年の数多くの研究が、様々な健康問題の背景として不適切なライフスタイルの存在を指摘している。今回行われたシンポジウムでは、子どものライフスタイルと健康問題というテーマを設定したわけだが、参加者の方々は健康教育の実践まで討論が進むことを期待されていたことと思う。そして実際にシンポジストの方々から多くの健康教育の実践についての報告がなされた。順を追ってシンポジウムの内容を紹介したいと思う。

最初に五色町健康福祉総合センター所長松浦尊磨先生より、兵庫県津名郡五色町で実施されているヘルスプロモーション活動の中から、児童生徒を対象とした健康調査と健康教育についてご報告いただいた。五色町での研究成果は、Goshiki Health Study という名称で本学会でもこれまで数多く報告されているが、今回は健康調査の結果のみならず健康教育の実施内容もご紹介いただいた。五色町では子どもの健康問題への対策を全年齢層を視野に入れたヘルスプロモーション活動の中に位置づけている。このような活動を可能にするには、単に学校保健活動内にとどまるのではなく、家庭や地域保健活動との連携、そして教育関係者と医療関係者の協力体制の確立が求められることになる。五色町はそれが理想的な形で具現化された数少ない例ではないだろうか。

次に西脇市立重春小学校養護教諭長谷川ちゆ子先生から、児童の生活実態調査の結果と健康教育の取り組みについてご報告いただいた。生活実態調査の結果では、過去10年間の子どもの生活の変化をご紹介いただいたが、中でも朝食をとる習慣には変化がみられないのに対して、その食事内容には大きな変化（パン食の増加など）がみられるなど、表面的な生活習慣ではなく、もう一歩踏み込んだライフスタイルの質的变化を指摘された。

また子ども自身が作り上げるファイル「わたしの健康」や自分自身で健康のめあてをつくる活動など、

子どもの主体性を重視した健康教育への取り組みは非常に示唆に富んだ内容であった。

三番目にご発言いただいた文部省体育局体育官（併任教科調査官）石川哲也先生は、これからの健康教育の方向性について述べられた。お話の中で、新しい学力観に立脚する健康教育では思考力、判断力に加え意志決定できる能力が重要であることを指摘され、そのためには課題（解決）学習が必要であることを述べられた。また中教審の諮問内容に触れて、学校と家庭、地域との連携の大切さを強調された。

最後に神戸大学発達科学部助教授川畑徹朗先生には、適切なライフスタイルの形成を目指す代表的な健康教育プログラムであるK Y B（Know Your Body）についてお話いただいた。K Y Bでは行動の背景にある社会心理的要因を重視するとともに、従来の知識伝達中心の健康教育にとどまるのではなく、ライフスキルの形成に重点をおいた内容に特徴がみられる。そしてK Y Bの具体的な内容とともに日本で開発された喫煙防止教育プログラムであるN I C E IIの内容を紹介された。

各先生方のご発言に共通する事柄として、学校と家庭、地域の連携、子どもの主体性を重視した教育内容、そして単なる知識伝達の健康教育ではなく意志決定のような能力の育成を目指した健康教育の実践の推進が指摘できるのではないかとと思われる。今後もシンポジストの方々のさらなるご活躍を期待するとともに、今回のシンポジウムをきっかけとして、参加者の皆様の中でも研究がさらに進められ、新たな成果がこの学会で報告されることを願うものである。

なお今回のシンポジウムでは時間の制約上、質疑や討論が十分に行えなかったことは遺憾であり、企画者として参加者の皆様にお詫び申し上げたい。

第42回近畿学校保健学会 参加者数

（平成7年6月10日）

	兵庫県	大阪府	京都府	奈良県	滋賀県	和歌山県	他府県	合 計
評 議 員	24	15	8	4	6	4	0	61
一 般 会 員	9	5	2	0	1	1	1	19
新 入 会 員	8	1	0	0	0	0	1	10
当日会員・学生会員	41	4	1	1	1	0	2	50
合 計	82	25	11	5	8	5	4	140

4. 学会印象記（1）

大阪教育大学

白石 龍 生

今回の学会は、阪神淡路大震災のため会場を変更せざるを得ないという状況になり、学会を担当された勝野学会長をはじめ兵庫県の皆様は大変ご苦勞なされた事だと思います。心よりお礼を申し上げたいと思います。

本学会に入会してほぼ20年になりますが、今回初めて印象記を書く事になりました。最初に学会当日会場等で聞いた会員の生の声を引用した上で、学会に対する希望もこめて印象を書きたいと思います。

「観光旅行みたいです。」（JR三田駅で事務局がチャーターして下さったバスを見て）「座長受付や発表者受付は必要ないのかな。」（受付にて）「評議員ばかりの学会ですね。評議員にも会費未納者がいますね。」（評議員会会場にて）「参加者が少ないし、若い人はほとんどいませんね。」（総会会場にて）「豪華な料理ですね。」（懇親会会場にて）

学会に参加する時会員は何を期待しているのでしょうか。次の3点あるように思います。第1には、学会のメインである一般講演の内容を聞き、新しい研究成果を知るとともに、自分と同じような研究を行っている仲間を見つける事が考えられます。今回前もって連絡もなく一般講演の発表者が到着しなかった（できなかった）会場があり、座長の先生が困られるという場面がありました。たまたま私が聞きたい演題でしたので非常に残念に思いました。発表者の受付があれば、事前に発表者が未到着である事がわかり、対応できたのではないかと思います。実は私もかつて筑波大学で行われた学会に参加する際、首都高速の大渋滞に巻き込まれ、東京駅から筑波まで4時間以上かかり、発表が出来なかった経験を持っています。その時は幸いにもバスの中に電話があり、学会事務局と連絡でき、私の発表を一番最後にまわしていただいたのですが、その時間にも到着できなかったという有り様でした。今回も中国縦貫が渋滞していたようですので発表予定の先生もイライラなされた事だと思います。学会当日の受付のそばに電話を設置するか、発表者の受付をおくといった配慮が必要だと思います。学会参加の目的第2には、特別講演およびシンポジウムを聞いて勉強するという事があると思います。テーマによっては参加したくない場合もありますので。学会事務局は会員のニーズを把握しなくてはならないので大変だと思います。第3には、久しぶりに恩師にお会いしたり、会員相互の交流を図るという事があると思います。懇親会は絶好の機会となると思います。

ところで本学会は、10年ほど前に大きな改革をし、それ以前の固定会員もなく、財源もないという状況が打破され、上林先生、武田先生そして現在の林先生という歴代の幹事長をはじめ学会員の努力で、ようやく学会としてその機能を発揮するようになってきたと思います。しかし会員のほとんどが評議員で構成される事、年次学会の参加者数が少ない事、会費未納者が2割あり、事務局が督促状を送るという事はやはり問題だと思います。学会は個人の意志で入会し、活動する所であるとすれば、学会自体の活性化を図

る時期にきていると思います。本学会の目的は、会則でみますと、1、総会、年次学会の開催 2、会誌その他の出版物の刊行 3、学校保健に関する調査研究 4、その他本学会の目的達成に必要な事業の4項目があげられていますが、3および4については何もなされていないように思います。学会として一定予算を計上し、共同研究を公募するといった事が学会の活性化につながるのではないかと考えます。さらには学会発表にどしどし参加する事が大切だと思います。私も最近発表から遠ざかっています。来年は学会発表が出来るよう努力したいと思っています。また近畿学校保健学会の特色はどこにあるのかその存在自体を再考する必要もあるように思います。学会に参加して本学会が大きな転換期にさしかかっているように感じました。

学会印象記（2）

神戸大学発達科学部附属明石中学校 養護教諭
五十嵐 裕 子

当日は、中国ハイウェイバスで会場へ向かいました。「社バストップ」に着いた時、まず「来て良かった」と思いました。家の周囲の殆どが全壊状態の東灘区（神戸市）から来た私は、のどかな播磨平野の田園風景に、感激しました。それまで、同じ県内でも被害に大きな差が有り、何事もなかった所を見ると、つい何で自分たちの所だけがそのようなことに、とみじめな気持ちになることがありました。今日は素直に喜べました。兵庫教育大学の広い構内はゆったりとしており、学会会場としては最適で、震災による交通の不便さを忘れさせ、快適に一日を過ごさせていただきました。

学会印象記は、自分自身の学会の参加のありかたから述べさせていただきます。私が、初めて出席したのは第18回でした。8月末だったので、学校は夏休み中、そして1学期の一番忙しい時期を終え、2学期に何かを思っていた時でした。心をときめかせて参加しました。以来、ここで何かが変わる、何か新しいものが得られる、正しいと思っていたことも時には見方を変えてみる必要があることなど、受け身の参加であっても、気持ちだけはそうではありませんでした。しかし、そのような参加ではだんだんもの足りなくて、自分も発表しようと思いました。発表するためには、一人よがりではいけないと思い、最初共同研究の一員に入れてもらうために、恩師や厚かましく色々な先生方の所に出向き指導を受けました。単なる仲間内での発表ではいけないことも分かってきました。学会が人を育てる事を身を持って知りました。

今回、震災にあい残念ながら一般口演はまったくの受け身の参加になりました。でも、私流の積極的受け身の参加をと、意気込んで会場に入り聞いておりました。疑問点が出るとつい心をときめかせてしまい、質問される先生がそれを指摘されると、やはり、まず研究は最初の考え方がしっかりしていないといけない。土台がしっかりしていないと……。実験や調査方法・考察等についても基本的なことを忘れてはいけないと、自分自身の反省にもなりました。講演やシンポジウムでは、講演集に目を通す時間が十分有り、また私が現在抱えている問題があるため、同じときめきでも、最後まで聞けば必ず答えが出る、という期待へのそれでした。そして、学校現場で教育の中でどのように展開するのがいいのかを、生徒や教職員、

親の顔を思い浮かべてながら聞きました。予防接種に関しては、保護者への啓蒙活動も含めて教育現場ですることを明確にすること。そのために、最新の知見を得たり、衛生行政の動きも知っておかねばと思いました。もっと、お聞きしたかったのに時間が足りず残念でした。後は、自分で勉強をしようとメモをしていました。

シンポジウムはライフスタイルという概念規定をどこまでするか、日常生徒とかかわっていると、単にライフスタイルの良い悪いが問題ではなく、根本的な生き方の問題も含めて人生観や健康観がどのように形成されてきたのか非常に気になります。そのため、ライフスタイルの概念の中に魂としての人生観や健康観を含められているのか、また、どのように児童・生徒に育てようとしてされているのか、そのような気持ちでシンポジスト方々の提言に興味を持って聞かせていただきました。先ほど述べたときめきを感じながら、今回はいつもより熱心に最後まで……。本当はそれらを、それぞれの先生方に質問したかったのですが、時間が気にかかり遠慮しました。

あの1月の阪神・淡路大震災から5か月の兵庫県での近畿学校保健学会開催、無理をしてでも出かけようと思ったのは、学会の内容よりも、それぞれの方々の安否や無事な顔を拝見できることでした。常連の先生方がかなり欠席されてました。のどかな風景の中で心の中は、ものすごい緊張感がありました。毎年のことなのにいつもとは違った学会でした。今後、震災で学校保健に期待されたことや問題点、児童・生徒の心のケアのことも含めて、辛いことですが、学会で近い内に取り上げられることと思います。

最後になりましたが、紙面をお借りしまして、震災で亡くなられた評議員の鈴木和子先生のご冥福を皆様方とお祈り申し上げます。

学会印象記（3）

京都教育大学
松 浦 賢 長

「晴れた！」。京都、学会の前日は雨。当日の早朝、ウインドシールドには小雨が落ちていた。が、朝7時、空は初夏の晴天に変わった。「幸先よし！絶好のドライブ、いや、学会日和！」。気合いを入れて走り出したのだが、あの天王山トンネルを渋滞なしで抜けた頃、高速道路のサインボードには「渋滞、2時間以上」という無情のドットフォントが踊る。「間に合わないかもしれない！」。あのサインボードに嘘偽りがなければ。間髪を入れず渋滞の最後尾に。1時間ほどでようやく数キロすすみ、気づけば、衝動的に高速道路を豊中で志半ばで降りていた。その後、震災の影響を残す街並みを縫うさらなるひどい渋滞に天を仰ぎながら、再び宝塚で高速に乗ったのは10時を過ぎたころ。最後には社の丘の下の一直線の農道を走り抜け、なんとか一般発表前半に滑り込むことができました。しかし京都から社まで結局4時間を要してしまいました。

そのため最初の2題ほどの発表を聞きそびれ、悔いを残しましたが、ここに学会の印象記を書かせていただきます。

「教育大学」に勤める者として「兵庫教育大学」には興味がありました。丘の上の広大な敷地にひろがるキャンパスは「羨ましい」の一言です。午前の一般演題発表は、聞きたいものがたくさんあったのですが、生憎多くが重なっており、結局欲張らずに1ラインに絞り込んで聞かせていただくことにしました。

2年前の和歌山では、正直言いまして本学会のローカル色に驚愕をおぼえたのですが、その後、幹事長の林正先生のお話を聞き、地方の学会の役割に対する認識を新たにさせていただきました。今回はそのような視点をもって参加させていただいたのですが、期待通り、全国規模の学会では得られない、いわば down to earth なよさを見いだすことができました。たとえば、アットホームな雰囲気の中での様々な発表スタイル、現場の先生方の率直で活発なご意見、比較的余裕のある進行時間、地方のユニークな活動の紹介、等々です。ですが、個人的には、もう少し質疑応答の時間が長ければ、リラックスしてディスカッションでき、様々な角度からの興味深い意見が得られたのではないかと思います。

幹事会をお昼に済ませ、上田重晴先生による特別講演を聴きに参りました。わたしは「母子保健学教室」出身であり、指導教官であった平山宗宏東大教授の専門の一つが予防接種でもあったため、予防接種には大学院時代から強い関心を持ってきました。大学で教鞭をとるようになると、なかなか人様の講義を聴くということが億劫になってしまうのですが、今回の上田先生のご講演により、エボラ出血熱や予防接種法改正などのトピックスについても勉強させていただきました。ありがとうございました。わたし自身、平山先生のもとで、MMR接種後の無菌性髄膜炎の発生率について研究していたこともあり、ぜひ上田先生にお教え願いたいこともあったのですが、時間切れとなり、少しばかり残念ではありました。

そしてシンポジウムに移ります。五色町がどこに位置するのか、わたしはそんな知識さえなかったのですが、Goshiki Health Study については、しばしば誌上で目にすることがありました。Prospective study というのはとても大変である、ということは研究者として痛いほどわかっていますので、松浦尊磨先生のご研究の重要性・希少性には頭が下がる思いです。また、松浦尊磨先生は、地域医療・保健にかかわる研究者・実践者としてだけでなく、教育者としても非常にユニークであるということが、スライドからひしひしと理解でき、とくに健康教育の手作り教材の秘伝が淡路島だけに伝承されるのは、もったいなさすぎると思いました。長谷川ちゆ子先生にも、一つのテーマについて10年以上にわたる継続調査を行い、たいへん興味のある、そして説得力のある報告をしていただきました。今後、たとえば10年後には子どもたちのライフスタイルがどのように変わっているのか、また是非お教え願いたいと思います。そして文部省の石川哲也先生には、保健教育の今後について、中央審議会の最新動向まで含め、たいへん示唆に富んだお話をいただきました。わたしが、まだ大学院に在籍している頃、石川先生に本郷で焼き肉をご馳走になったことをふと思い出したりもしましたが、その頃は、先生が具体的に何をなされているのかもあまり存じあげませんでした。しかし、今回、先生のお話をお伺いし、週休2日制やチーム・ティーチングと保健教育の関連などがよく把握でき、また先生の perspectives もすーっと理解できたように思います。最後は、川畑徹朗先生のとてもお上手な話術で、KYBの紹介をしていただきました。わたしもかなり米国にかぶれています。KYBについては不勉強でして、早速、大学院生をJKYBの研修に参加させることにいたしましたので、よろしくお願いいたします。

最後に、林正先生にとっては留学同窓生であり、わたしにとっては博士課程審査教官であった東郷先生（本年度より神戸大学発達科学部）に会場でお会いすることができ、非常に心強く思いました。人と人とのつながりの大切さがみえてくる学会、そんな感想を持ちました。ありがとうございました。

学会印象記（４）

大阪府立大学
中 神 勝

朝 9 時 J R 宝塚線三田駅前ロータリーを発った特別仕立ての送迎バスが到着した兵庫教育大学のキャンパスは、全体を青葉若葉の緑一色に囲まれた丘陵地に聳え立ち、余裕を持って配置された棟やグラウンドの随所に、自然と人工との見事な調和を誇り、指導者養成大学に相応しい、エネルギーに満ち溢れた佇いであった。

会場に充てられた共通講義棟の各講義室（四会場）間の移動や評議員会、総会、休憩室などの配置も見事であり、到着して早々「お早よう」の挨拶で迎えられた受付から、終始円滑な運営は見事であった。

午前10時30分を期して開始された一般発表は、第一会場（養護教諭、保健室及び保健学習関連 8 題）、第二会場（運動、栄養、生活習慣及び健康関連 8 題）、第三会場（ストレス・精神保健、幼児・環境・薬物関連 9 題）および第四会場（AIDS・性教育、スポーツ障害・学校安全関連 7 題）にわたって合計32題が報告されたが、学校保健が追求する不変のテーマから時宜を得たもの、個から集団、幼児から学生へ、また、復健、保健そして増健へと内容も広範にして、総合的なものなど例年以上に学際的な色彩が濃厚であった。会場での活発な質疑応答にその証しを見た。

昼食、評議員会を経て、総会に入ったが、慣例に依り、前学会長八木教授の司会で、勝野学会長挨拶。林幹事長による会務報告、次年度事業計画案など資料提供が極めて手際よく進められ承認された。勝野学会長が謙虚で、淡淡と話された本学会のテーマを一般発表を終えた段階で垣間見る思いであった。それを“学際” “総合”と感じたのは私だけか。

特別講演は学会長（勝野）の座長に依り、「子どもの病気と予防接種」と題し、上田重晴教授（大阪大学微生物病研究所、神経ウイルス分野）からなされた。昨年10月、予防接種法が改正され、新しい予防接種制度がスタートした時期に、予防接種の意義、安全性そして予診のありかたについて、正確でわかりやすい講演を聴き、大いなる意義を感じた。少憩を挟んで、渡辺助教授（事務局長）の座長により、シンポジウム「子どものライフスタイルと健康問題」が行なわれた。松浦講師（五色町健康福祉総合センター所長）は、地域と学校との見事な連携で実施しているアイディア一杯の健康教育の成果を、長谷川講師（西脇市立重春小学校養護教諭）は、13年間にわたる児童の生活実態調査と「私の健康」と題する書き込みノートを活用を通じた健康教育の推進を、石川講師（文部省体育局体育官）は、自ら体験、実感する教育の展開、知識偏重教育から脱し実践活動の励行を推奨した教育の重要性と課題解決的学習の必要性を、川畑講師（神戸大学発達科学部助教授）は、包括的な学校保健増進プログラム（K Y S）の紹介と、そのアメリ

カにおける指導成果を報告し、併せて、日本版の開発を急ぎ、既に日本においても地域との連携の中で成果を上げつつある。等々、課題に対する的確なる提言がそれぞれ行なわれ、時間の経過を惜しみ懇親会に入った。会場は程近くの嬉野生活会館であった。山海の珍品・珍味。乾杯の音頭は出口名誉教授（第26回大会会長）であった。喉が潤い、胃袋が満たされると舌も自然と滑らかに、医歯薬獣、文理、教育、体育など多士済々も健康学の旗の下、見事にインテグレートされ、近畿学校保健学会の発展、独自性など沸騰しつつある中、当番大学事務局長の閉会の挨拶があり、次期第43回大会（大阪市立大）での再会を約し散会した。それにしても歴代役員諸氏の夢の実現に向け数歩近づいた、学際的で格調の高い学会であった。勝野学会長をはじめとする当番大学各位は勿論、多くの関係者に対し深甚なる感謝を申し上げる。そして大震災に依る未曾有の被災にも屈せず見事に果たした第42回大会を、間違いなく発展への小波から大波への兆候と見たのは老眼の私のみではないと考えるが、如何。

以上。



遊覧船（滋賀）

近畿学校保健学会名誉会員

(平成7年6月現在)

安藤 格 伊東 祐一 今井 英夫 岩田 正俊 小沢 忠治 橋 重美
川畑 愛義 黒田 健雄 小出 陽造 佐守 信男 高島 雅行 中牟田正幸
藤井 義顕 園山 一郎 山本 勝朗 笠松 勇次 北村 李軒

平成6・7年度近畿学校保健学会評議員

(五十音順 ▲印は幹事、○印は新評議員)

◇滋賀県

▲石樽 清司 (滋賀大学 教育学部)
伊藤 昭三 (市立大津公民館晴嵐分館)
植村 良雄 (滋賀県医師会 学校保健技師)
大音 晋一 (滋賀県薬剤師会)
蒲生 芳子 (長浜市教育委員会 生涯学習課)
小林 清基 (東診療所 (滋賀県医師会 会長)
中村 清美 (大津市立長等小学校)
▲林 正 (滋賀大学 教育学部学校保健)
藤居 正博 (県歯科医師会)
村山 綾子 (県立大津商業高校)
山口 金治 (滋賀県学校薬剤師部会 部長)
山元 善弘 (滋賀県歯科医師会)

▲板持 紘子 (滋賀大学 教育学部附属中学校)
上島 弘嗣 (滋賀医科大学 保健管理学)
鵜飼由美子 (甲賀町立佐山小学校)
川副 茂 (滋賀県学校薬剤師部会)
木戸 増子 (滋賀県立武道館)
草野 薫子 (大津市教育委員会学校保健課)
谷川 尚己 (草津市立高穂中学校)
▲南條 徹 (滋賀県医師会 学校医部長)
播磨谷澄子 (大津市立打出中学校)
萬木由利子 (養護教諭部会)
山岸 司久 (元滋賀大学 保健管理センター)
○山野 恒一 (滋賀医科大学 小児科)

◇京都府

岡本 忠行 (京都府教育庁指導部保健体育課)
金山 政喜 (京都府医師会学校医会)
○栗山千代美 (京都市立正親小学校)
小島 廣政 (京都産業大学)
白木 文代 (京都府教育庁指導部保健体育課)
庄司 博延 (元 京都女子大学)
鈴木 實 (京都府歯科医師会)
忠井 俊明 (京都教育大学 保健管理センター)
○津田 謹輔 (京都大学 総合人間学部)
友久 久雄 (京都教育大学)
永田 久紀 (武庫川女子大学 家政学部食物学科)
日比野朔郎 (鳴門教育大学)
○福田 潤 (京都府医師会 副会長)
○森下 玲児 (京都大学 保健管理センター所長)
横田 耕三 (京都府医師会 会長)
米田 幸雄 (京都女子大学 家政学部被服衛生学)

▲金井 秀子 (京都教育大学)
木村 静雄 (立命館大学名誉教授)
小西 博喜 (京都工芸繊維大学)
酒井 晃 (京都市学校医会 会長)
白滝 忠光 (京都府学校薬剤師会 会長)
杉浦 守邦 (蘇生会病院 健康増進センター)
▲瀬戸 進 (大谷大学 文学部保健体育科)
▲美形八重子 (京都市野外活動施設 花背山の家)
寺田 光世 (京都教育大学)
仲岡 健 (京都府歯科医師会)
西 祥太郎 (京都府医師会 学校医部会)
平野登志子 (華頂短期大学)
○松浦 賢長 (京都教育大学)
▲八木 保 (京都大学 総合人間学部)
吉岡 文雄 (神戸女子短期大学 保健体育科)

◇大阪府

浅野 宜春 (大阪府医師会 学校医部会)
阿部 昌宏 (大阪摂南大学)
○安藤 純 (大阪府医師会 学校医部会)
井上 忠宏 (大阪府医師会 学校医部会)
○入江 悦子 (大阪市立 八幡屋小学校)
上野 康夫 (大阪工業大学 体育研究室)
鵜飼 大策 (学校歯科医)
▲大山 良徳 (和歌山大学 教育学部)
大迫 昌三 (大阪市学校薬剤師会)
岡崎 延之 (大阪女子短期大学)
小野 忠義 (元 大阪女子短期大学)
川辺 克信 (大阪市天宗保育専門学校)
菊池恵美子 (北天満小学校 養護教員会)
小山 健蔵 (大阪教育大学)
▲後藤 英二 (大阪教育大学)
島津 健三 (大阪府医師会 学校医部会)
新谷万里子 (大阪市立難波元町小学校)
杉山美代子 (大阪市立鷺学校)
▲須藤 勝見 (大阪教育大学)
高折 和男 (大阪教育大学 保健学教室)
田中 桂子 (淀川女子高等学校)
玉城 晴孝 (大阪府医師会 学校医部会)
出口 和邦 (大阪府高等学校歯科医会)
中内 正己 (大阪市立高等学校)
中川 八重 (大阪市立阿部野中学校)
花原 節子 (大阪基督教短期大学)
福本 絹子 (大阪成蹊女子短期大学)
藤森 弘 (大阪大学医学部 非常勤講師)
▲堀内 康生 (大阪教育大学)

松島 紀子 (大阪教育大学)
美馬 信 (大阪女子短期大学)
三村 信子 (大阪市教育委員会 学校保健課)
○光藤 雅康 (大阪教育大学)
森 喜代子 (大阪市立開平小学校)
東 真美 (大阪教育大学)
天富美彌子 (大阪教育大学)
▲一色 玄 (大阪市立大学医学部 小児学教室)
井上 幸子 (大阪府立刃根山養護学校)
岩井 浩一 (大阪大学健康体育部)
▲上延富久治 (大阪教育大学)
○江原 悦子 (大阪教育大学附属池田小学校)
小河 弘之 (大阪教育大学)
○加納 薫 (大阪府医師会 学校医部会)
○神木 照雄 (堺市中保健所)
角道 静枝 (大阪市立扇町中学校)
▲上林 久雄 (大阪成蹊女子短期大学)
楠本久美子 (大阪教育大学附属高校天王寺校舎)
後藤 章 (大阪教育大学)
坂本 吉正 (大阪市立大学 児童保健学)
白石 龍生 (大阪教育大学)
進 龍太郎 (飛鳥病院)
○更家 充 (堺市中保健所)
陶山 勝彦 (大阪府医師会 学校医部会)
高階 経昭 (大阪府医師会 学校医部会)
玉井 太郎 (大阪府医師会 学校医部会)
辻 立世 (大阪府立鳥飼高校)
仲井 正名 (大阪女子短期大学)
中神 勝 (大阪府立大学 総合科学部)

難波 英子 (関西女子短期大学)
 ○西村 民生 (修成建設専門学校 一般教育科)
 平井 富弘 (大阪大学医療短期大学部)
 藤岡 千秋 (大阪教育大学)
 古田 肇子 (大阪女子短期大学)
 本庄 康一 (大阪市立矢田北小学校)
 ▲松岡 弘 (大阪教育大学)
 三村 寛一 (大阪教育大学)

◇兵庫県

青山 泰子 (神戸市教育委員会)
 荒木 勉 (兵庫教育大学 生活健康系)
 和泉 正人 (学校医)
 内山 三郎 (医学研究国際交流センター)
 大橋 郁代 (兵庫県教育委員会 体育保健課)
 萩原 一輝 (一輝会 萩原整形外科病院)
 家治川 豊 (甲南女子大学)
 勝山 信房 (近畿大学 教養部)
 北口 和美 (西宮市教育委員会 学校保健課)
 倉掛 妙子 (夙川学院短期大学)
 近藤 文子 (兵庫女子短期大学 家政学部)
 島田 照三 (島田クリニック)
 高橋 洋子 (兵庫県立八鹿高校)
 立石 光代 (兵庫県立夢野台高校)
 塚本 利之 ()
 中井 久純 (神戸国際大学)
 長谷川ちゆ子 (重春小学校)
 原田 碩三 (兵庫教育大学 幼児教育)
 藤田 大輔 (神戸大学 発達科学部)
 別府 敏枝 (私立仁川学院中学校)
 ▲美崎 教正 (神戸大学 発達科学部)
 ▲南 哲 (神戸大学 発達科学部)
 村井 俊郎 (兵庫県学校歯科医会 会長)
 山城 正之 (神戸大学 発達科学部)
 ▲横尾 能範 (神戸大学 国際文化学部)

◇奈良県

有山 雄基 (奈良県医師会 会長)
 河瀬 雅夫 (天理大学 体育学部)
 ▲北村 陽英 (奈良教育大学 学校保健研究室)
 ○北山勘解由 (奈良市医師会)
 谷掛 駿介 (奈良市学校医会)
 出口 庄佑 (元 奈良女子大学)
 西信 元嗣 (奈良医科大学 眼科学教室)
 藤田 康子 (奈良県立明日香養護学校)
 森井 博之 (天理大学 教養部保健体育科)
 矢奥まり子 (奈良県立大宇陀高校)
 柳生 善彦 (奈良県桜井保健所)
 山下 節義 (奈良県立医科大学 衛生学教室)

◇和歌山県

▲猪尾 和弘 (和歌山大学 保健管理センター)
 井原 義行 (和歌山県高野口保健所)
 加藤 弘 (和歌山大学 教育学部保健体育科)
 川口 吉雄 (和歌山県学校歯科医会)
 ○北山 敏和 (田辺市立上芳養小学校)
 ○黒田 基嗣 (和歌山県立医科大学 衛生学教室)
 左海 伸夫 (スミヤ・スポーツ科学センター)
 芝 接子 (印南小学校)
 ▲武田真太郎 (和歌山県立医科大学 衛生学教室)
 辻本 信輝 (和歌山県歯科医師会)
 中 俊博 (和歌山大学 教育学部保健体育科)
 中村 淳一 (和歌山県医師会)
 ○永井 尚 (和歌山県薬剤師会)
 松浦 清 (和歌山県薬剤師会 会長)
 松本 健治 (鳥取大学 教育学部)
 宮下 和久 (和歌山県立医科大学 衛生学教室)
 ▲山中 守 (和歌山県医師会学校保健担当理事)

三好 暢子 (大阪市立住吉中学校)
 門奈 丈之 (大阪市立大学医学部 公衆衛生学)
 ○森内 徹 (歯科医師)
 山本 信弘 (大阪教育大学)
 吉田 浩重 (神戸芸術工科大学)
 柳井 勉 (大阪教育大学)
 ○山本 暁子 (関西女子短期大学)
 吉田 照延 (心斎橋健康クラブ飯島クリニック)

明瀬 好子 (神戸市立鷹匠中学校)
 五十嵐裕子 (神戸大学 発達科学部附属明石中学校)
 今出 悦子 (西宮市立西宮高校)
 大江米次郎 (大阪樟蔭女子短期大学)
 岡本 靖子 (兵庫県立長田高校)
 奥田 幸子 (神戸市立兵庫商業高等学校)
 ▲勝野 真吾 (兵庫教育大学 生活健康系)
 ▲川畑 徹朗 (神戸大学 発達科学部)
 北村 庄衛 (兵庫県学校薬剤師会 会長)
 小泉 直子 (兵庫医科大学 公衆衛生学教室)
 桜井 久恵 (兵庫県伊丹北高校)
 住野 公昭 (神戸大学医学部 公衆衛生学教室)
 田中 洋一 (神戸大学 発達科学部)
 出井 梨枝 (神戸市立須磨高校)
 長野 大 (神戸国際大学)
 橋野 静子 (神戸市立楠高等学校)
 ○濱中 良郎 (兵庫教育大学 保健管理センター)
 藤井美恵子 (神戸大学 発達科学部附属明石小学校)
 平瀬 悦子 (武庫川高校)
 水野 陽子 (兵庫県立宝塚高校)
 三野 耕 (兵庫教育大学 生活健康系)
 百元 三記 (加古川市立平岡南中学校)
 山名 康雄 (兵庫教育大学 生活健康系)
 ○山根 洋司 (明石市立野々池中学校)
 ▲渡辺 正樹 (兵庫教育大学 疫学健康教育学)

○大手 信重 (奈良県医師会)
 ○加納 庸元 (奈良市歯科医師会)
 北村 翰男 (奈良県学校薬剤師会)
 竹田 斌郎 (奈良市医師会・学校医部会)
 ▲○田村 雅有 (奈良教育大学 保健管理センター)
 ○中谷 昭 (奈良教育大学)
 ○浜口 達子 (奈良市学校薬剤師部 会長)
 福岡 保郎 (奈良県歯科医師会 会長)
 ○守田 幸美 (奈良市医師会 学校医部会会長)
 ▲八木 哲 (奈良県学校医部会 幹事)
 安田 忠男 (奈良県薬剤師会 会長)
 ▲山本 公弘 (奈良女子大学 保健管理センター)

稲田 武彦 (市医師会学校保健担当理事)
 岩本 謙三 (和歌山県学校薬剤師会 会長)
 柏井 洋臣 (和歌山県学校医会 副会長)
 金尾 宏 (和歌山県学校薬剤師会)
 木下 裕 (和歌山県医師会)
 坂口 弘一 (和歌山市学校医会 会長)
 ○坂本 忠幸 (和歌山県立医科大学 口腔科学教室)
 島 新一 (県医師会学校医部会 会長)
 冷水 和雄 (和歌山県医師会 副会長)
 田中 章二 (和歌山県教育委員会 保健体育課)
 虎谷 良雄 (和歌山県医師会)
 中村 靖男 (和歌山県医師会)
 ▲橋本 勉 (和歌山県立医科大学 公衆衛生学教室)
 ▲松岡 勇二 (和歌山大学 教育学部保健体育科)
 宮西 照夫 (和歌山大学 保健管理センター)
 森 道子 (和歌山県教育委員会 保健体育課)

近畿学校保健学会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は近畿学校保健学会と称する。
第2条 本会は学校保健に関する研究を行い、学校教育に寄与することを目的とする。
第3条 本会の事務所は幹事長のもとにおく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 総会、年次学会の開催
2. 会誌その他出版物の刊行
3. 学校保健に関する調査研究
4. その他本会の目的達成に必要な事業

第3章 会 員

- 第5条 会員は本会の目的に賛同し、会費を納入したものとする。
第6条 会員は年次学会、会誌などを通じて研究を発表することができる。また会誌の配布および本会の事業について連絡を受ける。
第7条 本会には賛助会員および名誉会員をおくことができる。
第8条 賛助会員は本会の目的を達成するために賛助の意を表し、評議員会の承認を経たもので賛助会費を納めたものとする。
第9条 名誉会員は学校保健に関し、学識、経験に富み、本会に功労のあったもので、評議員会の推薦のもとづき、総会で承認されたものとする。
第10条 会員は会費を滞納し、若しくは本会の名誉をけがす行為があったときには評議員会の議決により除名することができる。

第4章 役 員

- 第11条 本会に次の役員をおく。
1. 評議員 若干名
2. 幹 事 若干名（うち1名を幹事長、一部を常任幹事とする）
3. 監 事 2名
第12条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。役員は会員より選出されるものとする。
第13条 役員の選出方法は別に定める。
第14条 役員の任務を次のように定める。
1. 評議員は評議員会を組織する。
2. 幹事は幹事会を組織する。常任幹事は会務を処理する。幹事長は学会を代表し、会務を統括する。

3. 監事は会計を監査する。

第5章 会 議

- 第15条 本会の会議は総会、評議員会および幹事会とする。
第16条 総会は幹事長が毎年1回召集し開催する。必要に応じ臨時総会を開催することができる。
第17条 評議員会は幹事長が召集し、本会の運営に関する重要な事項を審議決定し、総会の承認をうるものとする。
第18条 幹事会は幹事長が召集し、評議員会に提案する議題の審議ならびに総会、評議員会から委任された会務を処理する。
第19条 評議員会および幹事会は構成員の過半数をもって成立する。

第6章 年次学会

- 第20条 本会は毎年1回年次学会を開催する。
第21条 年次学会は会員のうちから評議員会で選出し、総会で承認され、年次学会の運営にあたる。
2. 年次学会長は幹事会に出席することができる。

第7章 会 計

- 第22条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもってあてる。
第23条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
第24条 本会の収支決算は、監事の監査を受け、評議員会の議を経て総会の承認を得るものとする。

雑 則

- 第25条 本会則の変更は総会の決議によるものとする。

附 則

- 第26条 会費は年額3,000円とする。
第27条 本会則は、昭和28年6月29日より施行する。

昭和33年6月13日 一部改正
昭和39年5月17日 一部改正
昭和49年9月6日 一部改正
昭和56年7月9日 改正
昭和57年6月8日 改正

近畿学校保健学会役員選出規程

(趣旨)

第1条 この規程は、近畿学校保健学会会則第13条の規程に基づき、近畿学校保健学会役員選出に関する事項を定める。

(評議員の選出)

第2条 評議員の選出は、学会活動等を考慮の上、各府県別に当該地区幹事が推薦し、幹事会の承認を得なければならない。

(幹事の選出)

第3条 幹事の選出等については、次の方法による。

- (1) 各府県ごとに、会員の選挙によって当該地区の評議員から選出する。
- (2) 選挙権及び被選挙権の有資格者は、前年度までの会費を納入した者とする。
- (3) 各地区別幹事の定数は、当該地区被選挙権者の10分の1（端数切り上げ）に1人を加えた数とする。

(選挙管理委員会)

第4条 幹事の選出に当たっては、選挙管理委員会（以下「委員会」という）を置く。

- 2 委員会は、選挙前の適当な時期に各府県ごとの幹事の互選によって選出された各1人（計6人）で、構成する。
- 3 委員長は、委員会において選出する。
- 4 委員会は、4人以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。
- 5 委員会に関する庶務は、学会事務所において処理する。

(投票)

第5条 選挙は、各地区別定数の連記による無記名投票とし、投票は、郵送で行う。

- 2 同数得票の場合は、委員会において抽選によって決定する。
- 3 当選人が辞退した時は、次点の者から順次繰り上げるものとする。

(幹事長及び常任幹事)

第6条 幹事長及び常任幹事は、幹事の互選により選出し、評議員会の議を経て、総会において承認を得なければならない。

(監事)

第7条 監事は、幹事長が推薦し、幹事会において承認するものとする。

附 則

1. 本学会役員に任期中の地区異動があった場合には、当該役員は、任期満了まで、暫定的に選出地区にかかわらない役員としてとどまる。
ただし、その地区異動が、選出された年度の次の年次学会時までであった場合には、当該役員の転出した地区は、補充の役員を選出することができる。この場合、補充役員の任期は、転出役員の残りの任期とする。なお、補充役員の選出方法については、当該地区役員に一任する。
2. 本学会役員に任期中の事故等に関しては、前項を準用する。
3. この規程は、平成3年6月15日から施行する。

平成7年秋の関連全国学会・大会案内

学 会 名	開 催 期 日	会 場	事 務 局 ・ 連 絡 先
第42回日本学校保健学会	1995年11月25日 ～ 11月26日	千葉大学教育学部 (千葉市稲毛弥生町1-33)	〒263 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部 阿部 明浩 TEL.FAX 043-290-2623
第54回日本公衆衛生学会総会	1995年10月12日 ～ 13日・14日	山形県県民会館 〃 市民会館	〒990-70 山形市松波2丁目8-1 山形県環境保健部医薬務課内 TEL 0236-30-2303 FAX 0236-30-2301
第42回日本小児保健学会	1995年10月18日 ～ 19日・20日	長崎市公会堂 (長崎市魚の町4-30) 長崎市民会館 (長崎市魚の町5-1)	〒852 長崎市坂本1-7-1 長崎大学医学部小児科教室 福田 雅文 TEL 0958-47-2111 FAX 0958-49-7301

講演会のお知らせ (近畿学校保健学会主催)

演 題：子どもの発育に関する講演を予定

講 師：Dr.Roland Hauspie

(ベルギー自由大学人類学教室 Senior Research Associate)

J.M.Tanner教授のもとで研究。現在Annals of Human Biology

Editorの一人である。

日 時：11月29日(水) 講 演 17:00～18:00

懇親会 18:00～20:00

場 所：京大会館

会 費：8,000円

平成7年度会費納入について

昭和57年度より学会会則が改正され、会員制が明確に打ち出されております。したがって、年会費を納入されないと、翌年度から学会通信その他の案内が送られなくなります。

平成6年度および平成7年度の会費(各3,000円)が未納の会員の方は、至急同封の振替用紙を使って、学会事務所まで納入されますようお願いします。